

## 森林・林業・木材産業の将来を見通す

関西支所	ランドスケープ管理研究担当チーム長	岡 裕泰
林業経営・政策研究領域	林業動向解析研究室	立花 敏
	林業システム研究室	久保山 裕史
林業経営・政策研究領域	領域長	野田 英志

### 背景と目的

森林総合研究所では、『森林・林業・木材産業の将来予測ーデータ・理論・シミュレーションー』を、2006年12月に日本林業調査会から刊行しました。

この本は、森林総合研究所のプロジェクト研究「森林・林業の資源的、社会経済的長期見通し手法の開発」（2003～2005年）の成果を中心にまとめたものです。日本と世界の森林・林業セクターを包括的に取り上げ、森林資源、林業、木材産業、山村について、現状を踏まえて2020年を射程に入れたシミュレーション分析を行い、日本林業の将来を予測したものです。本書が、森林・林業研究の深化のみならず、森林・林業・木材産業の将来を見通す一助となることが期待されます。

### 成 果

#### 出版の意図

本書は、次のことを念頭においてまとめました。

まず、森林・林業の実情と将来について、広く国民の理解を得るために、森林・林業・木材産業の変化の状況を具体的なイメージのもとに、わかりやすく提示すること。また、森林・林業政策を的確に展開するために必要な、森林・林業・木材産業の将来予測情報を提供すること。そして研究面では、森林・林業・木材産業が、長期的にどう推移するかを科学的に予測する手法を開発・改良し、いくつかのシナリオの下で、少なくとも2020年を射程に入れた見通しを行い、日本林業の将来を予測することです。

#### 本書の内容

本書は、5部20章と補章からなる462頁の少々分厚い本ですが、各章の始めには写真とわかりやすい要約を入れて、理解を助けています。

- 第1部 世界の森林資源と林産物需給
- 第2部 日本の木材産業と林産物需給
- 第3部 日本の森林資源と林業生産
- 第4部 日本の山村人口と林業労働力
- 第5部 日本林業の将来ビジョン
- 補 章 森林・林業・木材産業の統計

第1部から第4部では、それぞれの内容について定性分析と定量分析により2020年を射程に入れた長期見通しの結果を示しました。そして第5部では、それらの相互関連や日本経済との関連を踏まえた、森林・林業セク

ターのマクロ的な分析を加え、本書の総括（日本林業の将来を考える）を行いました。

成果の一部を紹介します。まず、1) 世界の木材需要は年率1%余りの増加が予測されます（図1）。その一方で、生産力の高い人工林の面積も増加しており（写真1）、需要の増加に匹敵する木材供給力の拡大により、木材需給の逼迫が長期的に生じることはないと予測されました。次に、2) 日本の森林資源については、2020年には国内人工林の8割が41年生以上となり、41年生以上の蓄積量は2000年の3倍に増大すると予測されました（図2）。3) 国内林業生産については、労働力の減少が予測されるものの、間伐の生産性を高めることによって（写真2）、今後数十年は蓄積の高まった人工林から間伐材生産量を大幅に増やすことが可能であると予測されました（図3）。

日本林業は今、充実する資源を活用し、動き始めようとしています。是非、本書を参考にして、読者の方々も日本林業の将来ビジョンを描き、議論していただきたいと思えます。

本研究は、交付金プロジェクト「森林・林業の資源的、社会経済的長期見通し手法の開発」による成果です。

詳しくは『森林・林業・木材産業の将来予測：データ・理論・シミュレーション』（森林総合研究所編、日本林業調査会発行、2006年）をご覧ください。

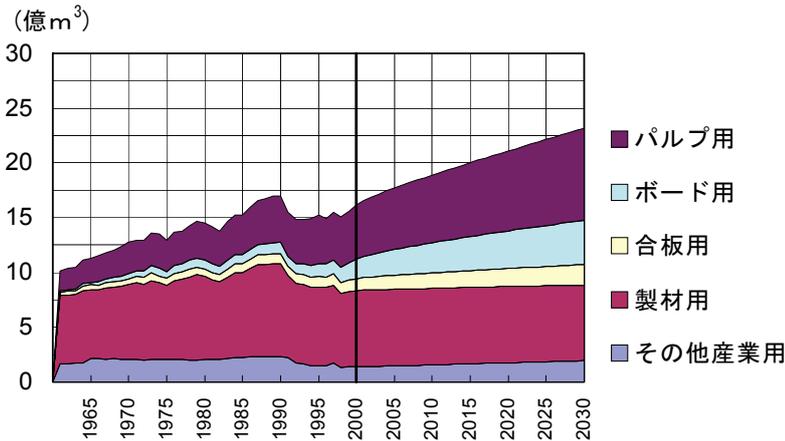


図1 産業用丸太の用途別需要量（世界合計）の実績と将来推計（1961～1999年：実績に基づく推定、2000年～モデルによる計算値）

写真1 ニュージーランドのラジアータマツの3年生の人工林

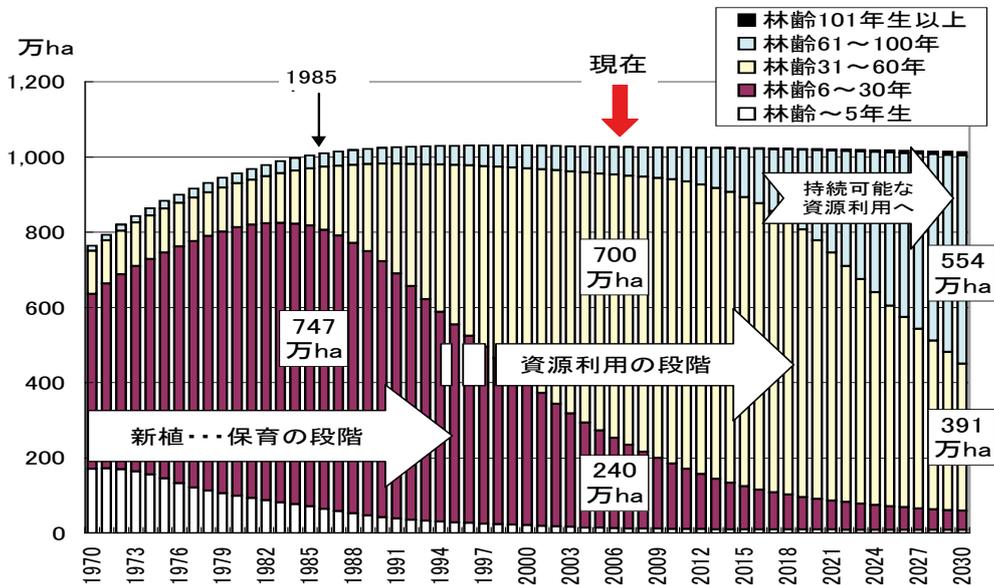


図2 人工林林齢区分別面積の推移と予測

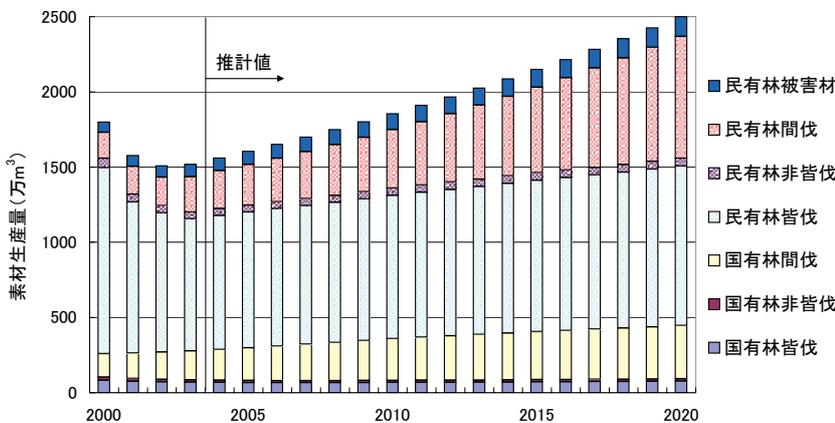


図3 所有形態および伐採方法別の素材生産量



写真2 高性能林業機械による間伐材造材作業

注：2020年に2500万m<sup>3</sup>まで素材供給量が通増するというシナリオの下で推計を行った。林齢が高まるに従って間伐率および利用率が上昇すると仮定している。